

より良い授業を目指して

学生と教師が共に学んで行かなければならない

鎌田 勇 (外国語コース講師)



現在の大学生が決定的に欠き、かつ必要な能力と態度、それは批判的思考力と積極性である。お上の言うことに黙って従い、会社では言われたことだけをこなす、こうした人間が求められ、そして大学はそうした人間を再生産してきた。今日の日本の社会・教育問題は、こうした封建時代の遺物の人間像が亡霊のように彷徨していることにある。

知識詰め込み式教育の下で、つらいだけの暗記学習に耐えてきた学生達は、確かにある期待を持って大学にやって来る。「遊びたい」これは疑いない。我々教師にも理解できる。遊ぶなくては心身の健康上良くない。高校までもっと済ませてきて欲しいが。

強迫神経症的に勉強してきた学生たちは、緊張状態にあるときは駆り立てられて勉強するが、緊張が緩むと何もできない。でも内心これでよいのかといつも不安に駆り立てられる。時間を使い分け、緊張とリラックスをうまく組み込んだ生活が出来たら良いのだが。

学生の期待は授業にも向けられている。無意味に思えた高校までの教育、しかしそこに到達すべく耐えてきた大学教育には何かあるに違いない、と。勿論、大学に入るまでが全てだ、という世間の風評も耳に入っている。でもどんな学生でも、少なくとも一抹の期待は持って大学に来る。そうでなければあまりに寂しい。

だが期待は裏切られたと学生は言う。ではそもそも学生は具体的に何を期待していたのか。それは学生の中でもはっきりしていない。ただ、何か違う、退屈だ、満たされない、という感じを持つ。

私は授業を退屈にしている原因を教師と学生両方に見る。教師だってそんな授業を受けてきたのだ。積極性、批判的思考力、コミュニケーション・議論の能力、自由・平等観、人権意識、いったい我々教師はこれらをどこまで自己のものとしていようか。他方、受動的・服従型教育にすっかり飼い慣らされてきた学生は、自分の欲しいものが分からないほど、消極的思考力しか持たない。この両者がどうして充実した授業を作ることが出来よう。授業は教師と学生両方が作るものだ。私は学生参加型の授業でなければならないと思っている。学生の集中力・緊張感が高まるし、社会に出て社会・政治・環境等を自分の問題として参加的・積極的に取り組むようになる。民主主義は単なる理念ではなく、実践的に学びとって行かなければならない。

こうした授業の実現には、大学全教師による、望まれる人間像についての議論、合意、必要制度の整備、更に、受験偏重を含めた教育システム全体の見直しが必要である。我々教師は、教育者として、良い授業をする為に、大学・教育改革に（この方向で）積極的に取り組まなければならない。米国で学位を取ってきた者として私は、米国の大学・大学院教育に比べ、日本のそれは20年は遅れ、その差は開きつつあると危惧する。

だが、現時点での良い授業をする努力の積み重ねが求められるのは当然である。この点では私は自己の能力不足に歯ざりする思いがし、上手な授業をなさる先生もきっとおられるに違いない、ねたましいかぎりである。

外国語コース、英語講座に所属する私は、英語の負担が大きく、専門は半期に1コマしかない。授業は通年にするか、セメスター制であるなら週2回にしなければ、学生の積極性を引き出す前に学期が終わってしまう。

私は全ての授業で、1回目に「今日の授業

が最も大切だと考えて欲しい」と前置きした上で、積極性がいかに大切か、教師と学生は対等であり、教師も学生から学べる、遠慮なく質問、批判をすること、と訴える。学生は結構真剣に聞いてくれ、目の輝きさえ感じる。でもいざ授業が始まると重い口を簡単には開いてくれない。

英語に関しては、リーディング・総合英語の場合、かなりの程度学生の自主性に任せられる。教材は一律にTIME。難しいが、6年以上英語の勉強をしてきて、米国の大半の学生が読んでいる週刊誌を、辞書を使って読めて当たり前、という私の言い分に学生は納得(顔)をする。記事は学生に選ばせ、授業はボランティアの学生の発表により進行する。2時間は予習して授業にのぞむ事、新聞を読む事を勧める。日本語力の不足が英語の読解力不足につながっている。

試験は辞書可・授業範囲(主)と辞書不可・授業範囲外の2回。レポートを出しても良い。記事の全訳に要約、内容への感想・意見を付ける。試験後、希望者には点数を知らせ、レポートを書くか相談にのる。号・記事は自分で選ぶ。夏・冬休みに出しても良い。出さないでくれと言うと、学生はむしろ嬉々として提出する。記事の全訳は彼らに取って非常に時間がかかるが、最終的に7-8割の学生が提出する。2通、3通と出す者もあり、読むのも実に変な作業になる。

TIMEを教材にする理由は、生きた英語に接するというだけではない。記事が多岐にわたり、社会・政治問題にも目を向け、日本と異なる視点、米国学生の読んでいる物を知る事が出来る。心理学、社会学、哲学を学んできた私にとって、学生に話してあげられる材料が多く、記事解説・関連余談に熱が入る。何とか知的に刺激してあげたいと思うのだ。

レポートには授業の感想を任意で書いて貰っている。遅刻するな、その分早く終えろ、余談をもっと、とかの注文、このやり方で良いと思う、社会・政治問題へ関心が高まった、新聞を読む必要を痛感したとか、記事を全訳し遂げた満足感、楽しさを書く者もある。記事への感想に鋭いものもある。

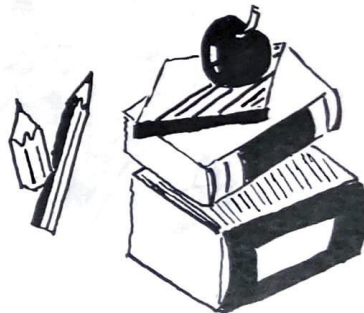
スピーキング、リスニングの授業では学生

は積極性を見せてくれない。ごく基本的な発音ができておらず、聞き取りも従って出来ない。それ故、授業は初歩的なものとなる。動機も低く、出席を取らないと出て来ない。これで大学の授業か、と情けない。基本的言語能力の取得は高校までに済ませて欲しい。

積極的に相手とコミュニケーションしようとする態度がない限り英語は上達しない。街の英会話学校の外国人教師も、消極的な日本人学生の態度に呆れているし、留学し、外国で英語を習った学生は、他国の学生の積極的態度に圧倒された口を揃えて言う。日本の教育そのものが外国語教育の問題なのである。

「国際化」と囁き立て、即それは英語力の取得と思う者も多いようだが、自分の意見をしっかり持ち、それを表現する能力・態度の習得が先ではないか。植民地化のように英語、英語と押しつけられた結果、妙な劣等感が助長され、まるで喋れなければ劣等生の証のように、人前で喋ることに気後れしてしまう。中学・高校では英語によるコミュニケーションの楽しさを学んできて欲しい。大学で補正するにはあまりに時間の浪費である。

最後に記したいことは、学生は教師とのコミュニケーションを求めているという事である。試験の点数を伝えるときの僅かな世間話に嬉しそうな顔をする。部屋に来ると根が生えたように動かなくなり、進路、家族、失恋と語っているうちに泣き出す者もある。自殺が多いと聞くが、教師と学生のより親密な接触が必要に思える。この親密さから、両者の授業への動機がもっと高まってこよう。学生(人間)は学びたいという欲求を持っている。教師がそれを引き出し、共に学ぶのが教育ではないだろうか。



総科サークルの実態に迫る

総科サークルとは、主に総科生及び院生だけから構成されるサークルである。新入生の皆さんに向けては、きっとオリエンテーションキャンパス広報部の冊子でも紹介されているだろう。また、直接勧誘や先輩方の話の中で様子をうかがい知ることできるだろう。だが、入学されたばかりの院生方、学生と普段接する機会の少ない先生方や職員方には、これらの活動はあまり知られていないかもしれない。また、総科を離れたOBの皆さんも、現在どんな様子なのか知ることもしないだろう。そこで、今回はこの「総科サークル」の活動を簡単にご紹介しよう。

形式としては、各サークル責任者あるいは関係者にアンケート形式で質問を行い、用紙に答えを記入してもらった。どんなことを書かれようとそのまま載せているので、ご意見及びご苦情は飛翔編集委員会までお願いします。

*

*

*

SO 科テニス

責任者：尾藤貴宏（2年）

活動人数：総人数30人程度／5～6人活動中

スローガンあるいはモットー：たのしくやろ～！（基本的に強制なし）

練習日：毎週水曜、金曜 etc.

練習目標：一人一人目標をもって（例：今日はサーブを入れてみよう、ラリーが続くように、バックをスライスで打てるよう、etc.）

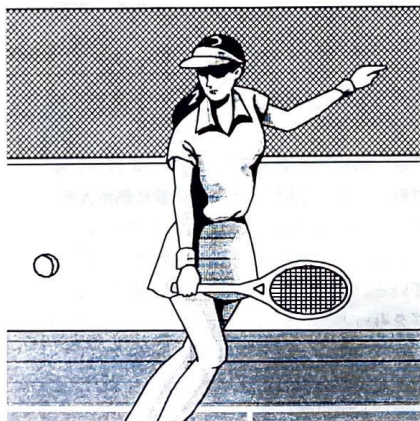
試合：サークル内で練習試合みたいな感じでやります。

フェニックステニス大会（注：全学のテニス大会）には出れます。

飲み等：・・・？

新入生(08生)に向けて一言：

「ほんととテニスをするのが好きな人、明るくやっています。テニスってお金かかるけど、SO科テニスはほんとにお金がかからないテニスサークルだと思います。友達も心の通じあえる人がたくさんできるよ。」



総科バレー

責任者：西岡浩一

（人間文化コース3年）

創設者：松村智紀さん（63生）

創設時期：S63.4に創立

創設の動機：「それまで総科にバレーのサークルがなかったため、バレー好きがなんとなく集まってできたサークルだそうです。現在ではOB現役あわせると100人をこえる大きなサークルに成長しました。」

活動人数：総人数は約50人／活動人数は30～40人

スローガンあるいはモットー：楽しく。

練習日：火、金（or火、木）の週2回

練習内容：主に試合形式

練習目標：フェニックスバレー（注：全学規模の大会）でいいとこまでいく

試合実績：フェニックスバレー、ベスト4が過去4回

合宿：夏、春、年2回、3泊4日

打ち上げ：夏、秋（休み突入コンパ）、春（追い出しコンパ）、冬（忘年会）
5月（新入生歓迎コンパ）

新入生(08生)に向けて一言：

「初心者歓迎、上手になれます。楽しくバレーをしましょう。」



総科バドミントン

責任者：飯川知明（数理情報科学コース3年）

活動人数：総人数？／活動人数は20人

練習日：火曜日・木曜日／内容：バドミントン／目標：暇つぶし

合宿：年1回

新入生(08生)に向けて一言：

「とりあえず入ってみて下さい。」



Mother Sun

責任者：松本学（2年）

創設者：松本学

創設時期：（平成7年）4月初め

動機：「グロンサン強力@エロ攻め消しゴムがきっかけ」
（※本人の希望どおり、そのまま載せています。）

活動人数：総人数25人、毎回10人前後が活動

スローガンあるいはモットー：

「おフランス民話スキントビー鉛筆
って感じでがんばります。」

練習日：毎週火、金、土

活動内容：サッカーのミニゲームと試合

練習目標：フェニックス（サッカー）

ベスト8（注：全学の大会）

合宿：しない

飲み：とことんやるぜ。

新入生（08生）に向けて一言：

「紅茶鈴木らんらんダッパングけつ血って感じにがんばってください。」

飛翔に対するご意見、ご苦情など：

「飛翔はかなりアカデミックだけど、この原稿のまま載せてね。」

（はい、載せました。彼の勇気に拍手「または苦情」をお送り下さい。なお、一切の責任は掲載した飛翔編集委員会にあります。）



総科バスケ

責任者：松井清正（人間文化コース3年）

創設時期：S61年

活動人数：総人数約50人／活動人数15人前後

スローガンあるいはモットー：楽しくやる。

練習日：毎週月、水

練習内容：5分アップの後ずっと5対5

練習目標：各自それぞれがもっています

公式試合：年1回行われるフェニックスバスケ（編集者注：同じく全学の大会）のみ

飲み：年に数回

合宿：年に1回

新入生（08生）に向けて一言：

「初心者歓迎。あなたの笑顔を僕たちに下さい。」



就職

就職事情

新入生にとっては、卒業後の進路も気になるころだろう。入学しておめでたいところに冷や水を浴びせるようだが、総科の就職事情をぜひ知ってもらいたい。



総科には、就職委員会という組織がある。企業から就職情報を収集して学生に提供したり、あるいは他大学の同様の組織と情報交換を行ったりしている。今回は、就職委員長の藤井博信先生にお話をうかがった。

先生によれば、「今年も去年同様健闘している」ということだった。進学希望、自営業、または来年公務員試験を受けるために今年は就職活動を行わないという人を除いた就職希望者の内定率は（12月25日現在）約8割（男子約7割、女子約9割）で、去年と同水準である。ここ2、3年の傾向として、女子の方がよい結果を得ているという。「女子の方が危機感を自覚しているのでは。学生に聞いても、3年の終わりになっても進学か公務員かを悩んでいる男子学生もいるのに対し、女子は割合自分の進路がしっかりしている。少なくとも、3年になった時点で自分が何に向いているのかをつかみ、そして3年の冬休み頃までには進路をはっきりしておく必要がある。公務員は1、2年のうちから勉強をしておかないと駄目だ」とも言われた。

去年の飛翔には「企業はやる気を重視しており、語学力や情報処理能力、協調性、自己管理能力などの『即戦力』はさほど重要視していない」という話があったが、今回の取材では「実戦力は必須」という発言があった。これまでは社内教育でこういった「実戦力」を身につけさせていたのだが、今やそんな余裕はないようだ。実戦力を前提として、同時にやる気も求められている。「よく言われるのが『この人となら仕事をやってみたい』と思わせる人材を欲しているという事だ。これ

は勉強だけでいても、人間関係だけに優れていてもいけない、という事だと思う。」と先生は語る。理系の場合、修士卒の人材が求められているという。これも即戦力になるからである。

また、広島市内から離れて広大生だけ（総科生だけ？）と暮らしているせいか、「他大学の学生との接触がなく、競争心が薄いようだ」という指摘もあった。「それでも、就職難がいわれだした3年前よりは学生も危機感を持っているし、前進しているのだろう」ともつけ加えられた。「就職委員の先生達も、一部だが学生と個人的な接触をもつなど、随分頑張っておられる。しかし、学生の側からはなかなか接触してこない。それだけ自主的に動いているのだろうが、それでも駄目だったときは就職委員会に相談にきて欲しい。特に文系の学生にお願いしたい。」ということだった。

就職マニュアル本なるものも巷間に出回っているが、面接での答が画一化してしまうとも言われる。そういったテクニックだけに捉われてはいけなく、という事は先生も言われていた。編集委員の個人的意見としては、最低限常識として知っておくべき事を参照するにとどめたほうがいいのではないかな。また、自分の能力や適性を知る事も必要である。それには何よりもいろんな人と協力して一つの事をする経験が必要であるし、大学側では適性テストも行っている。機会をとらえて、自分の進路を真剣に考えるべきであろう。

（学生編集委員：渡邊忠信）

※就職内定率の数字については、飛翔48号で一部報道機関により数字が無許可で剽窃され、関係者がいわれのない批判を受けたため、機密保持の観点からこのような表現にとどめさせていただきます。

就職活動へのアドバイス

西川 節行 (地域文化コース講師)

はじめに 文部省の調査によれば、就職を希望している大学の来春卒業予定者のうち10月1日現在の内定率は69.8%で前年同期に比べ3.2ポイントのダウン。特に中国・四国ブロックは56.3%と極めて厳しい状況となっている。来年度も、たとえ景気が少々回復したとしても、引き続き企業のリストラや合理化、企業の海外移転による空洞化などで、就職環境は今年並かそれ以上の厳しさになることを覚悟しておく必要がある。私は銀行人事部で採用を担当し、その後経済団体や外資系企業で採用にタッチしてきた経験から、就職委員を仰せつかっているが、同時に自分の子供の就職に駆け回った経験からも、これから就職に望む皆さんにアドバイスしたい。

目標設定を早く 皆さんは、しっかりした目的をもって学問してきたと思うが、卒業後の進路については、特に文系の学生に、3年の後期になっても、まだ、はっきりした意識のない者が多いように見受けられる。まだ目標が決まっていない学生は、家族、指導教官、先輩などと相談し、目標に向かって1日も早く準備に入るべきだろう。

資格にチャレンジしよう 終身雇用、年功序列に代表される日本の経営システムから、能力主義、専門知識が重視される時代に入り、従来の明朗、快活だけではこれからの就職戦線乗り切っていくのは難しい。大学生協に資格関係のパンフレットが山積みされているように、就職にも資格をもっている方が当然有利である。例えば、旅行業界を目指す場合は旅行業務取扱主任者資格は必須であり、商社、金融には英検、簿記関係の資格を取っているほうがいい。先日の就職ガイダンスで話して頂いた総科の先輩は数行の一流銀

行から内定を貰っていたが、在学中に、情報処理技術者資格や住建主任者資格を取っておられ流石だと感心した。私が今まで経験した職場では在学中に公認会計士や税理士をパスして来たのが何人もいた。できれば就職のためにだけではなく専門家として自立できるような資格に挑戦してみてもどうか。

公務員試験を目指そう 社会に出て学生時代に習得した知識や能力を最も活用できる職業は公務員だと思う。とりわけ、女性にとっては男性と同様に活躍できる場であり積極的にチャレンジすることをお勧めする。公務員試験では、国家I種、II種、III種、県庁の地方上級、県庁所在地の市役所、地方都市など順番に受験できる。ただ競争率が非常に高いため、早めにかつ真剣に準備に取り組まなければ合格は難しい。資格試験や公務員試験の準備には、同じ目標を持つ者同志がお互いに情報を交換しあい、一緒に勉強するのが効果的だと思う。

家族、指導教官、先輩とよく相談すること 残念なことではあるが不景気が続く昨今、就職は学生

一人一人に対応できる段階を超えていると思う。よほどの自信のある場合以外は、家族ぐるみ、先生も一体となって取り組まなければよい結果は期待できないと思う(不景気にはコネが必要となる)。言葉が悪いが、自己努力とともに、使えるものは何でも使うタフな精神を持つこと。戦略、戦術をよく考えること。

目標は高く 就職はこれまでの集大成であり、一生の問題である。弱気になることなく理想の目標を掲げ実現に向かって努力しよう。微力ながら応援します。ご健闘をお祈りします。



TYA IN CANADA

Alice Hamilton Luther (外国語コース助教授)



One of the areas of study offered as part of the University of Lethbridge (Canada) Division of Theatre and Dramatic Arts is called Theatre for young Audiences (TYA). TYA refers specifically to the development and production of plays by adults for children.

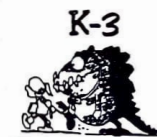
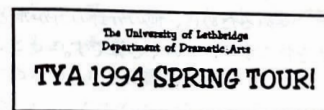
The first step in preparing adults for the process of creating plays for children is to introduce them to exercises in which they attempt to "get in touch with the child within".

Next, adults must become familiar with the interests and profiles of today's youth. As most University students are familiar with television, radio, computer and cinematic offerings for children, the emphasis in the TYA curriculum is on contemporary children's literature and music which is subsequently used as a springboard for discussion.

Some students conduct interviews in the schools to identify subjects of interest to their young audiences, as the children themselves are the most valuable resource to TYA practitioners.

The TYA plays are generated in the University theatre classroom setting where students work in groups for several weeks to script and rehearse the plays which then embark on an extensive tour of schools. The immediate reaction from the children and written feedback from the teachers may send the groups back to the drawing boards to rework the material so some plays undergo a workshop phase as well.

There are only a handful of universities in Canada which offer TYA programs, so most of the work for children is produced in the professional theatres. The University of Lethbridge TYA program reaches 7,000 children each year with its program, offering entertainment and heightening cultural awareness.



What's Under Belinda Begonia's Bed?
When it's bedtime, Belinda Begonia has trouble falling asleep. The bumps and thumps from under her bed produce a wide array of characters who sing and dance into the night. This is an enchanting story theatre adventure for very young audiences.

Sr High

Two pieces from the Actors Theatre of Lethbridge collection of 25 Minutes Plays are featured for High School students.

4 A.M.



One second may well be the difference between meeting the ideal partner and ending her search for the right. This play brings forth the eye long question of love and sex in the 4th century.

Road To Ruin



Car problems lead a couple to a strange and unpredictable future. Again, there takes the toll on the life of the "unfortunate".

総合科学と私

上 領 達 之 (生体行動科学コース教授)



毎朝八時頃、研究室に着く。学生達はほとんど顔を揃えていて、スタッフと実験の準備などを始めている。よく整頓された自分の部屋に入ると、感じよく活かされた季節の花の香りが一日の活動の始まりを告げる。会議に忙殺されなくなって久しい。講義は週二回。教室では目を輝かせた若者達が前の方に座って、私を待ち受けている。「私語や居眠りをする学生が多くて困る」といった話を聞くが、私には実感が無い。オフィスアワーには「講義で聞いたあの話題に興味があります」と言って参考図書の紹介を求めに来る学生が意外に多い。土曜日の午後は周囲の人たちと室内合奏を愉しむことにしている。

ごめんなさい。これは嘘です。でも気のもちた次第では、当たらずと雖も遠からず。総合科学部での毎日をありがたいことと感謝しています。

* * *

私は農芸化学を勉強しました。「農芸化学ってどういう学問？」という問いは、総合科学部に対する質問によく似ています。農芸化学は明治十一年(1878)日本で、一人の外国人傭い教師の手で始められました。欧米の学問体系にはありませんが、Louis Pasteur (1822-1895)の軌跡はこれに当たるでしょう。鈴木梅太郎、藪田貞治郎、坂口謹一郎、野村真康、高月昭らの名前で察していただければいいでしょう。ウィルスから動物まで人体を除く全ての生物を対象としてどのような方法論でも採り入れる、これは生命の総合科学です。総合科学が成立するかどうか、議論するまでもありません。一世紀に及ぶ実践の歴史があると、私は思っています。

細分化することでその学問の発展のように見なされる中で、総合科学は謂れのない肩身の狭さを感じ続けてきた。日本農芸化学会は改革の一環と称して、その英文学会史の名称 Agricultural and Biological Chemistry を Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry に変えた。農芸化学のもつ多様性をまとめるに足る共通項が見え難くなったことに苛立ち、農業を軽んじる風潮に迎合したのだろう。新しげな専門科学の名を並べてみても、総合科学であることが変わるわけではない。

* * *

総合科学部を発足させた専門を異にする百余名の教官団に、共通項など用意されてはなかった——それを創ろうとする意志の外には、このようにして作られた組織は、その意志の持続によってのみ、分裂を喰う内外からの圧力にかろうじて拮抗し得たのであろう。

科学と技術の融合によって科学の社会的な影響力が増え、専門性で囲った密室の中での成果を専門外の人びとに開放することが、いよいよ必要になってきました。そのような折に、この意志の持続は、貴重な経験であったと思います。総合科学部に身を置く一人として、自分の学問を堅実に進めると共に、相互の理解を深めるために、他の分野の方がたとの交流を焦らず続けていく心算です。



My New Zealand

友 田 淳 子 (学生係)

先日、家に帰ると、電話の隣に緑色の封筒が置いてあるのに気付いた。私宛である。それはニュージーランドから届いたクリスマスカードだった。もう3年近く前の話になるが、春休みを利用して約2か月間、語学研修でニュージーランドにホームステイをした事がある。春休みとはいえ、出発が2月の初めだったので日本はとても寒く、季節が逆のニュージーランドへ行くことは、まるで寒さからの脱出のようだった。(しかし、その年は冷夏だったので、肌寒い日が多かった。)

ステイ先は、ニュージーランドの南島で最大の町、クライストチャーチ。大聖堂を中心に、緑の濃い落ち着いた町並みが続いている。家族はホストマザーのバレリーとホストシスターである大学生のリサの二人。他国の一般的な家庭に仲間入りした事で、私の日常とは違う点をいろいろ発見出来た。例えば皿洗い。私も含め3人でのローテーションだった。手順は、流し台に水を溜め洗剤を薄める。次にゴム手袋をはめ、金だわして洗い、水で流さずに泡が付いたままの食器を水切りカゴに入れる。最後にそのままふきんで拭く。他の家庭でも同じように行われているようだったが、ゴム手袋をはめて洗う程だし相当濃い洗剤なのだろうか？ 水で流さないが体に悪い影響はないのだろうか？と少し不安だった。だから自分の当番の時、こっそり水で洗い流したこともあった。

いろいろな事に挑戦することも出来た。語学研修のプログラムが終了した後、友人とニュージーランド国内を1週間程旅行したのだが、特にアウトドアレジャーの盛んな町、クィーンズタウンでの体験は私の人生の中で最もスリリングなものだった。私はそこでバンジージャンプに挑戦した。実際、橋の上からカワラウ川の水面までの44メートルをまのあたりにすると、数秒後に自分に起こる恐怖で身のすくむような思いがした。しかし日本を経つ前、「絶対にバンジージャンプして帰

るね。」と友達に豪語していたので、ここでやめるわけにはいかない。インストラクターは、初めにタイミングを逃すと跳びづらくなるということを良く知っていて、跳びやすいように威勢のいい掛け声をかけてくれた。

「ゴー、ヨン、サン、ニー、イチ、トペー」気が抜ける掛け声でもある。悔しいことに足がすくんで、1コールで跳ぶことが出来なかった。2度目はやっぱり怖い。どうしても足首に結ばれたゴムベルトが緩いような気がして、とっさに出た言葉は、

「May be ずれる！」

2コール目は、結局バランスを崩してそのまま落ちてしまい、バンジーjumpと言うよりはバンジーfallといった状態だった。それでもこの体験は、私にとって大きな自信につながった。

クリスマスカードはリサからだった。暖かい夏を楽しんでいるようだ。懐かしくなってアルバムやガイドブックをめくってみた。心残りと言えば、「見た目は変わっているけどおいしいわね。」と言われるような肉じゃがを、日本の家庭料理として紹介してしまった事。そして、私が日本社会の知識に乏しかったため、法学部生だったリサの質問に曖昧な返答しか出来なかった事だ。それでも異なる環境の中で、いろいろな事に一生懸命頑張る事の出来た2か月だったから、私にとって単なる寒さからの脱出ではなかったのだと信じている。



◆インターネット事始◆

村上 久 恵 (LL 準備室教務員)

11月23日に発売された Windows95。パソコンの OS のバージョンアップには異様な盛り上がりで、パソコン業界の CM 合戦もさることながらマスコミでの取り上げ方もすごかった。こんな風に社会現象になってしまうのも企業側の販売戦略の一つなんだろうけど、それにしても昨年からマルチメディアブームはとどまることを知らず、まさにマルチメディアのバブルといった感じ。それに踊らされる人々を「ブームに弱い日本人」と罵るクールな見方もあるようだけど、あんなに煽りたてる CM ばかり流してたら、なんだか取り残される気がしてとりあえずパソコン買っちゃおう、という人がでてくるのも仕方ないような気がします。

もう一つ Windows95 と同様、いま世の中を騒がせているのがインターネット。これも昨年(94年)あたりからさかんに新聞、雑誌の紙面をにぎわしているの、パソコンをやっている人もとりあえず耳にしたことはあるはず。コンピュータ関連の書籍売り場にもインターネットの解説書がところ狭しと並んでいます。インターネットを知らない人のために簡単に説明しておく、インターネットとは世界各国の無数にあるパソコン通信ネットワークの集合体の中で、インターネットというネットワーク網が存在しているわけではありません。そういう意味では非常にファジーな集合体なのですが、今や電話やファックスに次ぐ有力なコミュニケーションメディアとして世界的に広がっているものです。

それがどんなにすごいものなのか。インターネットの信奉者たちは、インターネットをペリーの黒船来航にたとえ、世界の趨勢から取り残されていることに無自覚な日本人を憂い、

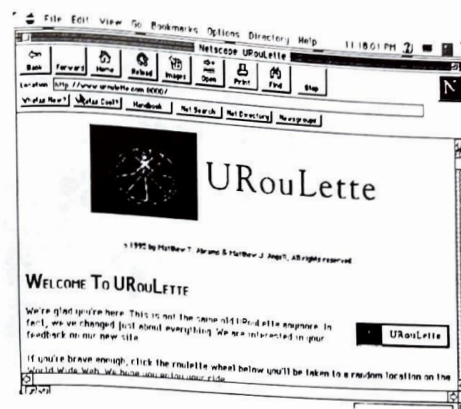
ノンフィクションライターの立花隆も Views 1 月号で「人間社会は、今人類史上かつてないほどの大きな変貌を遂げようとしている。物理空間を基盤に構成された社会から、情報空間を基盤に構成される社会に変わろうとしている。この変化は、森を基盤に生活していた縄文人が、畑を基盤に生活する弥生人にとって変わられたよりはるかに大きな変化になるだろう。」とまでいっています。縄文人から弥生人になるよりもっと大きな変化? なんだかすごい比喻だけど現実に私たちの生活がどんな風にな変わっていくんでしょうか。

そういう見通しは専門家に任せるとして、インターネットビギナーの私はとりあえずネットサーフィンに繰り出します。一口にインターネットといってもいろんな機能がありますが、私が使っているのは今のところ E-mail と WWW (World Wide Web) だけです。ネットサーフィンとは WWW 上の情報を次々と見ていく行為を例えたもので、その経験が無い人にはピンと来ないでしょうが一度ネットサーフィンを体験すればその例えの的確さはすぐさま実感できることでしょう。巨大な、ほんとに巨大な情報の波にのまれている感覚を味わえます。私がよくアクセスするのが The Virtual Tourist で、世界各国のホームページを見て回っています。ドイツ、オランダ、スイス……とヨーロッパを一周した後は、インド、タイ、シンガポールとアジアに飛んで、広大なホームページに戻ったら新しいページが増えてないかチェックする。「インターネットはどこでもドアのようだ」ともいわれていますが、これも一度サーフィンすれば実感できるでしょう。しかしこんな調子でアクセ

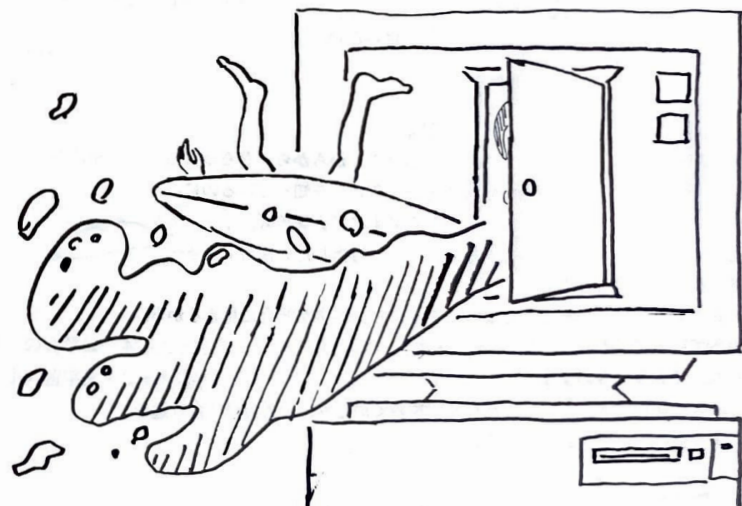


スしていると1時間2時間あっという間に過ぎて、まさにネットワークの袋小路には入った状態になって抜けられなくなります。これがネットサーフィンの怖いところ。殆どが自分から欲していない、見方を変えたと不毛ともいえる情報に貴重な時間を使うことになり

ます。上手にサーフしなければはつきり言って膨大な時間の浪費にもなりかねません。充血した目をこすりながら「あ〜何やってんだろう」ということのないようネットサーフィンは程々にしましょう。(自戒の念とともに……)



Kansas 大学内のホームページ。ルーレットをクリックするとどこか違うページに飛んでいける。どこのページにいくかはルーレット次第。
URL: <http://www.roulette.com:8000/>



総合広大に集合

Chie Hirose (社会科学研究科修士1年)

総合大学 Go! Go!

科学と科学の集合? 混合? それとも意気投合?

何か欲しい者はここで集合!

人と人との結合もまた結構おもしろい意気投合。

人の背中を見ながら待つ12時半の昼食も

貴方といっしょの青空の下なら

結構たのしい 時空間。

メニューの漢字は私の毎回の挑戦

“とり肉”は鶏肉でも

“うし肉”はうし肉じゃなくて、牛肉だって!

ユニークに漢字は結合。

こんな私の生協の昼休みは

私の国の食堂も多分負けちゃうね。



左から二人目がヒロセさん

時間が黒板に記される日だけは

とにかく思い出したいのはただあのマスターの言葉

書きたいあのページのセンテンスは、

なぜか先生との意気投合!

大学にいるのも忘れ、どうしても求めてしまうのは合格へ go go under...

出来るのならここでも科学の総合性を求めたいな…… 単位は少し別にして

そう、後にして

総合性を探せば探すほど、自分に正直に付き合いたい

愛していると言いながら

いざ、こだわるのは 貴方のした小さな間違い:

見詰めるのは いつも誤解から かけら からから からっぽ

なぜ、もっと全体を見てあげない? 貴方のいろいろを知っているのに。

でも、いつからか貴方の何もかも、ばらばらにすぐアナライズ。

貴方を丸ごと抱きしめる大きい心が欲しい…… 目指したい投合

総合的に捉えた恋は最高かも。

もし、貴方を総合的に理解できるようになったら、科学が総合に見えるかも。

強情張って待っても

ごめんね、でも多分今のまま

今日の広大、建物色々 だからこそ自分で歩いて探そう、一番自分に合う道をも

もし、少し慣れてくれば、科学の総合もやれそうだ。

二階が三階でもあり、二階が一階にもなり、三階は三階で終わり……

J棟がA棟につながり、A棟はC棟につながり、しかしA棟からK棟にはまだ行けない。これ広
大の総科!

バスに乗って、バイクに乗って、友達の自転車を借りて、歩いて、走って、散歩して、
広大一回りするのも、今は、簡単になったじゃない?
そばのエレベーターも使ってみようよ! (階段も使ってもいいんだよ)

もし、建物の中の空気が合わなくても、広大は庭も広いから、大丈夫!
広場の階段にすわっての無駄話も、太陽に当たっていれば健康
みんなと交ざり合えば、

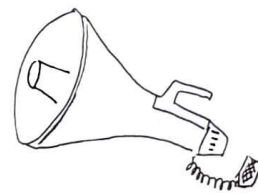
結構、上等な総合理解

そう、国際理解

昼のスピーカーと赤い自転車と強い青年

ワイドショーよりましな日本をいつも見せてくれる!!

フーコーの大綱に抵抗する気はないけれど
自分の総合科学を見付けたい
時には強引に、go into ゴールイン!



毎朝通る総合科学の入口に刻み込まれている
“世界にひとつ”は何を言いたいのか?

私は立ち止まって考えてしまう。

世界に何ひとつ? 総合? 科学? 総合科学部? それとも、総合広大? (いや、私かな?)
そうね、私は貴方の青春をただ通り過ぎて行くだけではないと広大が教えてくれるの。

5秒遅れても待ってくれるバスを

いつも走って乗っていると、

大学の坂道もいつしか楽に登ることができるのだね。

広大での私を総合的にとらえてみると

かなり GO GO 行くな GO AHEAD!!

科学の総合は自分の中から始めたい、

総合的に貴方を見詰めることから。

形にはこだわらず。

PS: 広島大学へ 心をこめて

Chie Hirose



※この文章は、本学大学院社会科学研究科 M1 のチエ・ヒロセさんが、広島大学統合移転記念行事の留学生スピーチコンテストで発表したものです。